

◎令和3年度予算がまとまりました

健診受診や早めの治療で、 医療費節減に ご協力ください

第120回組合会において、令和3年度の予算が
可決・承認されましたので、お知らせします。

経常収支で 赤字を見込む予算編成に

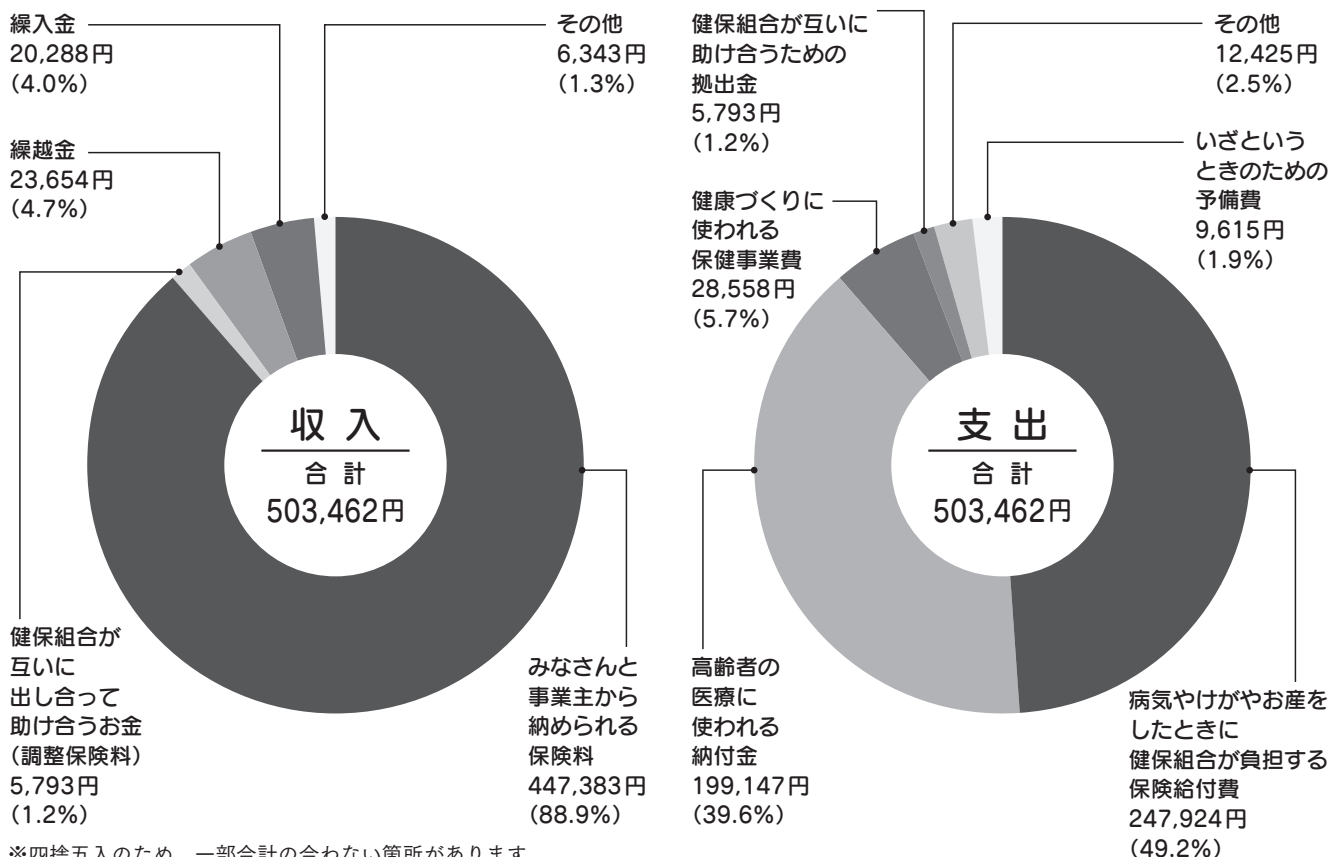
かねてより指摘されている、高齢化に伴う「2022年危機」は、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者へと移行することで高齢者の医療費が急増し、現役世代の保険料負担がさらに重くなるというものです。そして、今なお収束の兆しが見えない新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞は、保険料の減収へと繋がり、健保組合の財政は、「2021年危機」へ前倒しされることが確実視されています。

こうした背景の下、当健保組合は令和3年度の予算編成を行いました。総額26億1800万円を計上しましたが、経常収支においては、経常収入23億3717万円、経常支出は25億3735万円となり、2億18万円もの赤字を見込むことになりました。

納付金負担が財政運営の 大きな足かせに

収入では、健康保険料率を前年度と同じ千分の100とし、みなさんと事業主から納めていただく保険料を前年度比9599万円減少の23億2639万円としています。しか

◎被保険者1人当たりでみた収支予算（健康保険）◎



※四捨五入のため、一部合計の合わない箇所があります。

◎令和3年度収支予算概要◎

《健康保険》

■収入

科 目	予算額(千円)
みなさんと事業主から納められる保険料	2,326,394
健保組合が互いに出し合って助け合うお金 (調整保険料)	30,125
繰 越 金	123,000
繰 入 金	105,500
そ の 他	32,981
合 計	2,618,000

■支出

科 目	予算額(千円)
病気やけがやお産をしたときに 健保組合が負担する保険給付費	1,289,203
高齢者の医療に使われる納付金	1,035,563
健康づくりに使われる保健事業費	148,500
健保組合が互いに助け合うための拠出金	30,125
そ の 他	64,609
いざというときのための予備費	50,000
合 計	2,618,000

し、保険料だけでは医療費などの支出に対し十分ではないため、繰越金1億2300万円、積立金からの繰り入れ1億550万円などで不足分に対応します。

支出においては、みなさんの医療費や各種給付金として使われる保険給付費について、同比3133万円減少の12億8920万円、高齢者医療制度への納付金は同比2億1509万円増加

の10億3556万円を見込みました。納付金は保険料の4割以上を占めるほど、負担が大きくなっており、財政運営の大きな足かせとなっています。このほか、みなさんの健康づくりのための保健事業費は、前年度とほぼ同額の1億4850万円とし、みなさんのサポートに注力してまいります。

以上の結果、保険料による収入が減少となった一方で、納付金への負担が

以前にも増して重くのしかかっており、当健保組合の財政は厳しくなっております。みなさんには、日ごろから運動習慣を身につける、栄養バランスの良い食生活を送るなどで、医療費節減にご協力くださいますよう、お願いいたします。

なお、令和3年度の介護保険については、当健保組合が国に納める介護納付金は2億4439万円となりました

た。これをもとに介護保険料率を算出し、前年度の千分の16から千分の17(事業主・被保険者折半負担)へ引き上げとさせていただくことになりました。これは介護保険の利用者や介護サービス費用の増加などによるものです。健保組合は国の代行機関としてみなさんから介護保険料を徴収しています。介護保険収入は2億4637万円を見込んでいます。

《介護保険》

■収入

科 目	予算額(千円)
みなさん*と事業主から 納められる介護保険料	246,372
繰 越 金	1,000
雑 収 入	28
合 計	247,400

■支出

科 目	予算額(千円)
国に納める介護納付金	244,387
介護保険料還付金・積立金	213
予 備 費	2,800
合 計	247,400

※介護保険第2号被保険者たる被保険者等

